

1. 本校の道徳教育重点目標について

昨年度の学校評価を受け、言葉遣いやきまりを守る項目で評価が下がっていたことから、今年度の道徳教育の重点目標は〈礼儀〉〈規則の尊重〉としました。各学年の目標は表のようになっています。

	第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
礼儀	気持ちのよい挨拶、言葉遣い、動作などに心掛けて、明るく接すること。	礼儀の大切さを知り、誰に対しても真心をもって接すること。	時と場をわきまえて、礼儀正しく真心をもって接すること。
規則の尊重	約束のきまりを守り、みんなが使うものを大切にすること。	約束や社会のきまりの意義を理解し、それらを守ること。	法やきまりの意義を理解した上で進んでそれらを守り、自他の権利を大切にし、義務を果たすこと。

(学習指導要領より)

2. 第5学年の本日（9/12(土)）の道徳授業について

(1) 授業の内容

主題名：権利と義務について考える（内容項目 C規則の尊重）

教材名：「これって『けんり』？これって『ぎむ』？」

(出展「新訂 新しい道徳5」東京書籍)

ねらい：権利と義務の関係について理解し、集団生活を送るうえで自他の権利を尊重し合い、自分の義務をすすんで果たそうとする意欲を育てる。

(2) 授業のポイント

○具体的な場面の提示

権利と義務の理解に混乱が生じないように、具体的な場面を導入で提示して考えられるようにした。

○物事を多面的・多角的に考える

権利と義務どちらかを一方的に取り上げるのではなく、両者の関係を理解したうえで、正しく権利を主張して義務を果たそうとする態度を育てられるようにした。

○自己投影

登場人物に自分を投影して、一人一人が自分事としてよりよい集団生活をするために自他の権利を尊重し合えるようにした。

(3) 授業を振り返って（児童の様子）

○具体的な場面を取り上げて、権利と義務の関係を丁寧に確認することで、自分の権利を主張することの大切さと同時に、他の多くの人々の権利の大切さを認め、これらを守るために義務があることについて理解を深めることができた。

○登場人物に自分を投影して考えさせることで、果たすべき義務について自分との関わりで考えることができた。

